

(様式第 10)

14 福井大第 960 号
平成 26 年 9 月 30 日

厚生労働大臣

殿

開設者名 福井大学長
真弓光文 (印)

福井大学医学部附属病院の業務に関する報告について

標記について、医療法（昭和 23 年法律第 205 号）第 12 条の 3 第の規定に基づき、平成 25 年度の業務に関して報告します。

記

1 開設者の住所及び氏名

住 所	〒910-8507 福井県福井市文京 3 丁目 9-1
氏 名	国立大学法人 福井大学

(注) 開設者が法人である場合は、「住所」欄には法人の主たる事務所の所在地を、「氏名」欄には法人の名称を記入すること。

2 名 称

福井大学医学部附属病院

3 所在の場所

〒910-1193 福井県吉田郡永平寺町松岡下合月 2 3-3	電話(0776)61-3111
---------------------------------	-----------------

4 診療科名

4-1 標榜する診療科名の区分

①医療法施行規則第六条の四第一項の規定に基づき、十六診療科名すべてを標榜
②医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として、十以上の診療科名を標榜

(注) 上記のいずれかを選択し、番号に○印を付けること。

4-2 標榜している診療科名

(1) 内科

内科	(有) ・ 無
内科と組み合わせた診療科名等	
1 神経内科 2 呼吸器科 3 消化器科 4 循環器科 5 6 7	
8 9 10 11 12 13 14	
診療実績	

(注) 1 「内科」欄及び「内科と組み合わせた診療科名等」欄については、標榜している診療科名について記入すること。

(注) 2 「リウマチ科」及び「アレルギー科」についても、「内科と組み合わせた診療科等」欄に記入すること。

(注) 3 「診療実績」欄については、医療法施行規則第六条の四第三項の規定により、他の診療科で医療を提供している場合に記入すること。

(2) 外科

外科	(有) ・ 無					
外科と組み合わせた診療科名						
1 呼吸器外科	2 心臓血管外科	3 形成外科	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
診療実績						

(注) 1 「外科」欄及び「外科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名について記入すること。

(注) 2 「診療実績」欄については、医療法施行規則第六条の四第三項の規定により、他の診療科で医療を提供している場合に記入すること。

(3) その他の標榜していることが求められる診療科名

①精神科	②小児科	③整形外科	④脳神経外科	⑤皮膚科	⑥泌尿器科	⑦産婦人科
8 産科	9 婦人科	⑩眼科	⑪耳鼻咽喉科	⑫放射線科	13 放射線診断科	
14 放射線治療科	⑮麻酔科	⑯救急科				

(注) 標榜している診療科名の番号に○印を付けること。

(4) 歯科

歯科	(有) ・ 無					
歯科と組み合わせた診療科名						
1 歯科口腔外科	2	3	4	5	6	7
歯科の診療体制						

(注) 1 「歯科」欄及び「歯科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名について記入すること。

(注) 2 「歯科の診療体制」欄については、医療法施行規則第六条の四第五項の規定により、標榜している診療科名として「歯科」を含まない病院については記入すること。

(5) (1)～(4)以外でその他に標榜している診療科名

1 リハビリテーション科	2 病理診断科	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21

(注) 標榜している診療科名について記入すること。

5 病床数

精神	感染症	結核	療養	一般	合計
41床	0床	0床	0床	559床	600床

6 医師、歯科医師、薬剤師、看護師及び准看護師、管理栄養士その他の従業者の員数

(平成26年10月1日現在)

職 種	常 勤	非常勤	合 計	職 種	員 数	職 種	員 数
医 師	283人	94人	355.5人	看 護 補 助 者	61人	診療エックス線技師	0人
歯 科 医 師	6人	4人	9.1人	理 学 療 法 士	11人	臨 床 検 査 技 師	34人
薬 剤 師	41人	0人	41人	作 業 療 法 士	4人	衛 生 検 査 技 師	0人
保 健 師	0人	0人	0人	視 能 訓 練 士	5人	そ の 他	0人
助 産 師	9人	1人	9.7人	義 肢 装 具 士	0人	あん摩マッサージ指圧師	0人
看 護 師	641人	34人	660.9人	臨 床 工 学 技 士	8人	医 療 社 会 事 業 従 事 者	6人
准 看 護 師	0人	0人	0人	栄 養 士	1人	そ の 他 の 技 術 員	9人
歯 科 衛 生 士	1人	0人	1人	歯 科 技 工 士	1人	事 務 職 員	168人
管 理 栄 養 士	7人	2人	8.5人	診 療 放 射 線 技 師	29人	そ の 他 の 職 員	48人

- (注) 1 申請前半年以内のある月の初めの日における員数を記入すること。
 2 栄養士の員数には、管理栄養士の員数は含めないで記入すること。
 3 「合計」欄には、非常勤の者を当該病院の常勤の従業者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下2位を切り捨て、小数点以下1位まで算出して記入すること。それ以外の欄には、それぞれの員数の単純合計員数を記入すること。

7 専門の医師数

(平成26年10月1日現在)

専門医名	人 数	専門医名	人 数
総合内科専門医	10人	眼科専門医	7人
外科専門医	20人	耳鼻咽喉科専門医	12人
精神科専門医	3人	放射線科専門医	15人
小児科専門医	16人	脳神経外科専門医	9人
皮膚科専門医	3人	整形外科専門医	8人
泌尿器科専門医	13人	麻酔科専門医	7人
産婦人科専門医	10人	救急科専門医	12人
		合 計	145人

- (注) 人数には、非常勤の者を当該病院の常勤の従業者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下1位を切り捨て、整数で算出して記入すること。

8 前年度の平均の入院患者、外来患者及び調剤の数

歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科の前年度の平均の入院患者及び外来患者の数

	歯 科 等 以 外	歯 科 等	合 計
1日当たり平均入院患者数	473.8人	6.9人	480.7人
1日当たり平均外来患者数	772.2人	26.2人	798.4人
1日当たり平均調剤数	入院： 649.1剤 外来： 50.3剤		
必要医師数			98人
必要歯科医師数			3人
必要薬剤師数			17人
必要(准)看護師数			268人

- (注) 1 「歯科等」欄には、歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科を受診した患者数を、「歯科等以外」欄にはそれ以外の診療料を受診した患者数を記入すること。
 2 入院患者数は、年間の各科別の入院患者延数(毎日の24時現在の在院患者数の合計)を暦日で除した数を記入すること。
 3 外来患者数は、年間の各科別の外来患者延数をそれぞれ病院の年間の実外来診療日数で除し

た数を記入すること。

- 4 調剤数は、年間の入院及び外来別の調剤延数をそれぞれ暦日及び実外来診療日数で除した数を記入すること。
- 5 必要医師数、必要歯科医師数、必要薬剤師数及び必要（准）看護師数については、医療法施行規則第二十二條の二の算定式に基づき算出すること。

9 施設の構造設備

施設名	床面積	主要構造	設 備 概 要			
集中治療室	m ² 183.52	鉄骨鉄筋 コンクリート	病床数	10床	心電計	有・無
			人工呼吸装置	有・無	心細動除去装置	有・無
			その他の救急蘇生装置	有・無	ペースメーカー	有・無
無菌病室等	[固定式の場合] 床面積 298.61 m ² [移動式の場合] 台数 台		病床数	28床		
医薬品 情報管理室	[専用室の場合] 床積 54.00 m ² [共用室の場合] 共用する室名					
化学検査室	59m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備) 検体検査自動化総合システム			
細菌検査室	56m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備) 全自動細菌検査システム			
病理検査室	94m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備) 病理組織染色機			
病理解剖室	55m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備) マルチスライスCT装置, 永久磁石型オープンMRI装置			
研究室	4,653m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備) リアルタイム定量PCR装置			
講義室	357m ²	鉄筋コンクリート	室数	2室	収容定員	426人
図書室	1,861m ²	鉄筋コンクリート	室数	21室	蔵書数	130,900冊程度

- (注) 1 主要構造には、鉄筋コンクリート、簡易耐火、木造等の別を記入すること。
 2 主な設備は、主たる医療機器、研究用機器、教育用機器を記入すること。

10 紹介率及び逆紹介率の前年度の平均値

算定期間		平成25年4月1日～平成26年3月31日	
紹介率	62.8%	逆紹介率	47.5%
算出根拠	A: 紹介患者の数	7,549人	
	B: 他の病院又は診療所に紹介した患者の数	6,886人	
	C: 救急用自動車によって搬入された患者の数	1,567人	
	D: 初診の患者の数	14,507人	

- (注) 1 「紹介率」欄は、A、Cの和をDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。
 2 「逆紹介率」欄は、BをDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。
 3 A、B、C、Dは、それぞれの前年度の延数を記入すること。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

1 承認を受けている先進医療の種類(注1)及び取扱患者数

先進医療の種類	取扱患者数
抗悪性腫瘍剤治療における薬剤耐性遺伝子検査	1人
CYP2C19遺伝子多型検査に基づくテラーメイドのヘリコバクター・ピロリ除菌療法	15人
IL28Bの遺伝子診断によるインターフェロン治療効果の予測評価	11人
前眼部三次元画像診断	28人
(他の保険医療機関に対して検体の採取以外の業務を委託して実施する保険医療機関) 急性リンパ性白血病細胞の免疫遺伝子再構成を利用した定量的PCR法による骨髄微小残存病変(MRD)量の測定	0人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人

(注) 1 「先進医療の種類」欄には、厚生労働大臣の定める先進医療及び施設基準(平成二十年厚生労働省告示第百二十九号)第二各号に掲げる先進医療について記入すること。

(注) 2 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

3 その他の高度の医療

医療技術名	血液がん薬物療法におけるkey drugの治療薬物モニタリングと遺伝子多型	取扱患者数	2人
当該医療技術の概要 血液悪性腫瘍患者で抗がん薬の血中薬物動態を測定しTDMを行う。さらに関連する遺伝子多型の検索も加え、その治療効果および副作用との関連につき検討を行う。			
医療技術名	日本紅斑熱における重症化機序の解明	取扱患者数	53人
当該医療技術の概要 日本紅斑熱患者の急性期の血清サイトカイン・ケモカイン濃度を測定することにより、重症化例を予測し、適切な治療、処置を行うことにより、予後を改善することができる。			
医療技術名	脳神経疾患患者に対する酸化ストレスイメージングを用いた病態解明	取扱患者数	8人
当該医療技術の概要 パーキンソン病をはじめとする神経変性疾患では、酸化ストレスがその病態に深く関わっていることが注目されている。この脳内の酸化ストレスを ⁶² Cu-ATSM PETを用い画像化することに成功している。			
医療技術名	ピタバスタチンのアルツハイマー病治療への応用	取扱患者数	6人
当該医療技術の概要 細胞モデルを用いた検討により、アルツハイマー病の病因物質であるリン酸化タウ蛋白を減らす効果が示されたピタバスタチンを高脂血症を合併するアルツハイマー病に投与する試みを開始している。これまで軽症例では進行を抑制する傾向が認められている。髄液中リン酸化タウ蛋白の定量も併せて行っている。			
医療技術名	ミトコンドリア病の遺伝子診断	取扱患者数	6人
当該医療技術の概要 ミトコンドリア病が強く疑われる患者に対し、患者遺伝子を解析し、疾病病型に特異的な遺伝子変異を同定することで、診断のみならず、治療法の選択や予後の推測、遺伝カウンセリング等で、患者に有益な情報を提供することができる。			
医療技術名	神経変性疾患の遺伝子診断	取扱患者数	12人
当該医療技術の概要 脊髄小脳変性症が強く疑われる患者に対し、患者遺伝子を解析し、疾病病型に特異的な遺伝子変異を同定することで、診断のみならず、治療法の選択や予後の推測、遺伝カウンセリング等で、患者に有益な情報を提供することができる。			
医療技術名	血清サロゲートマーカーを用いた冠動脈機能の評価	取扱患者数	22人
当該医療技術の概要 冠動脈疾患患者における末梢流血単核球表面の膜型細胞外マトリックス分解酵素の発現をフローサイトメトリー法により計測し、冠動脈造影検査時の冠循環機能のデータとを比較検討し、冠動脈機能の予測の評価を行う。			
医療技術名	癌腹膜転移に対する化学温熱腹膜灌流療法(CHPP)の開発研究	取扱患者数	3人
当該医療技術の概要 大腸癌、虫垂癌、卵巣癌などの腹膜転移、腹膜中皮腫などに対し、腹腔内を高温の抗癌剤を含む灌流液で温熱灌流する温熱化学療法である。			
医療技術名	胃癌腹膜播種治療におけるタキサン系抗癌剤の腹腔内投与法の確立	取扱患者数	3人
当該医療技術の概要 臨床研究として、胃癌腹膜播種及び腹腔細胞診陽性症例に対して腹腔ポートを用いたタキソール及びタキソテルの腹腔内投与を行っている。全身化学療法に加えて行うことで、治療成績の向上や安全性の確認、治療効果判定の確立を検討している。			
医療技術名	PETを用いた圧迫性頸髄症に対する脊髄グルコース代謝量の定量的評価と臨床応用	取扱患者数	2人
当該医療技術の概要 PET imagingの臨床応用として、頸髄部の変化を確認し、圧迫病変の評価を行う。			

医療技術名	骨盤骨折の治療におけるナビゲーション支援手術	取扱患者数	5人
当該医療技術の概要 重度外傷である骨盤骨折の観血的治療において、ナビゲーションシステムによる支援を行うことで、より安全かつ正確な手術を行うことができる。			
医療技術名	嗅神経を用いた顔面神経再生	取扱患者数	10人
当該医療技術の概要 保存的治療に反応しない顔面神経麻痺に対して顔面神経管開放と同一人物の嗅神経を採取後、神経を囲むように移植し、麻痺の回復促進を図る。			
医療技術名	FLT-PET検査を用いた卵巣がん再発症例に対する化学療法の治療効果判定	取扱患者数	1人
当該医療技術の概要 治療効果を早期に予測する新規バイオマーカーの開発は、二次化学療法が有効となる患者選択を可能とし、予後改善に寄与すると考えられる。			
医療技術名	FES PETによるエストロゲン依存性子宮腫瘍の診断と治療効果判定	取扱患者数	45人
当該医療技術の概要 16 α -[¹⁸ F]fluoro-17 β -estradiol(¹⁸ F-FES)を用いたPET検査により、エストロゲン受容体の発現程度に基づいた良悪性の鑑別診断(子宮内膜増殖症と内膜癌、子宮筋腫と肉腫)や、子宮筋腫のホルモン療法の治療効果予測を行う。			

(注) 1 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

(注) 2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として十以上の診療科名を標榜する病院については、他の医療機関での実施状況を含め、当該医療技術が極めて先駆的であることについて記入すること(当該医療が先進医療の場合についても記入すること)。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 特定疾患治療研究事業対象疾患についての診療

疾患名	取扱患者数	疾患名	取扱患者数
・ベーチェット病	21人	・膿疱性乾癬	3人
・多発性硬化症	28人	・広範脊柱管狭窄症	9人
・重症筋無力症	27人	・原発性胆汁性肝硬変	8人
・全身性エリテマトーデス	53人	・重症急性膵炎	0人
・スモン	0人	・特発性大腿骨頭壊死症	32人
・再生不良性貧血	23人	・混合性結合組織病	15人
・サルコイドーシス	41人	・原発性免疫不全症候群	2人
・筋萎縮性側索硬化症	13人	・特発性間質性肺炎	18人
・強皮症、皮膚筋炎及び多発性筋炎	49人	・網膜色素変性症	21人
・特発性血小板減少性紫斑病	34人	・プリオン病	1人
・結節性動脈周囲炎	14人	・肺動脈性肺高血圧症	1人
・潰瘍性大腸炎	48人	・神経線維腫症	8人
・大動脈炎症候群	8人	・亜急性硬化性全脳炎	0人
・ビュルガー病	6人	・バッド・キアリ(Budd-Chiari)症候群	0人
・天疱瘡	11人	・慢性血栓塞栓性肺高血圧症	1人
・脊髄小脳変性症	20人	・ライソゾーム病	6人
・クローン病	23人	・副腎白質ジストロフィー	0人
・難治性の肝炎のうち劇症肝炎	0人	・家族性高コレステロール血症(ホモ接合体)	0人
・悪性関節リウマチ	2人	・脊髄性筋萎縮症	0人
・パーキンソン病関連疾患(進行性核上性麻痺、 大脳皮質基底核変性症及びパーキンソン病)	107人	・球脊髄性筋萎縮症	3人
・アミロイドーシス	6人	・慢性炎症性脱髄性多発神経炎	4人
・後縦靭帯骨化症	75人	・肥大型心筋症	1人
・ハンチントン病	2人	・拘束型心筋症	0人
・モヤモヤ病(ウリス動脈輪閉塞症)	19人	・ミトコンドリア病	9人
・ウェゲナー肉芽腫症	0人	・リンパ脈管筋腫症(LAM)	1人
・特発性拡張型(うっ血型)心筋症	14人	・重症多形滲出性紅斑(急性期)	0人
・多系統萎縮症(線条体黒質変性症、オリブ橋 小脳萎縮症及びシャイ・ドレーガー症候群)	14人	・黄色靭帯骨化症	17人
・表皮水疱症(接合部型及び栄養障害型)	2人	・間脳下垂体機能障害 (PRL分泌異常症、ゴナドトロピン分泌異常症、ADH 分泌異常症、下垂体性TSH分泌異常症、クッシング 病、先端巨大症、下垂体機能低下症)	22人

(注) 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

5 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(基本診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
・地域歯科診療支援病院歯科初診料	・呼吸ケアチーム加算
・歯科外来診療環境体制加算	・病棟薬剤業務実施加算
・特定機能病院入院基本料(一般病棟:7対1、精神病棟:13対1)	・データ提出加算2(イ:200床以上の病院)
・臨床研修病院入院診療加算(医科:基幹型)	・地域歯科診療支援病院入院加算
・救急医療管理加算	・特定集中治療室管理料1
・超急性期脳卒中加算	・総合周産期特定集中治療室管理料
・妊産婦緊急搬送入院加算	・新生児治療回復室入院医療管理料
・診療録管理体制加算	・小児入院医療管理料3
・急性期看護補助体制加算(50対1)	・
・看護補助加算2	・
・重症者等療養環境特別加算	・
・無菌治療室管理加算1	・
・無菌治療室管理加算2	・
・緩和ケア診療加算	・
・精神科身体合併症管理加算	・
・がん診療連携拠点病院加算	・
・栄養サポートチーム加算	・
・医療安全対策加算1	・
・感染防止対策加算1(感染防止対策地域連携加算)	・
・患者サポート体制充実加算	・
・褥瘡ハイリスク患者ケア加算	・
・ハイリスク妊娠管理加算	・
・ハイリスク分娩管理加算	・
・退院調整加算	・
・救急搬送患者地域連携紹介加算	・
・総合評価加算	・

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
・高度難聴指導管理料	・皮下連続式グルコース測定
・糖尿病合併症管理料	・長期継続頭蓋内脳波検査
・がん性疼痛緩和指導管理料	・神経学的検査
・がん患者カウンセリング料	・補聴器適合検査
・外来緩和ケア管理料	・ロービジョン検査判断料
・糖尿病透析予防指導管理料	・コンタクトレンズ検査料1
・夜間休日救急搬送医学管理料	・小児食物アレルギー負荷検査
・外来リハビリテーション診療料	・内服・点滴誘発試験
・ニコチン依存症管理料	・センチネルリンパ節生検1(併用法)
・地域連携診療計画管理料	・画像診断管理加算2
・がん治療連携計画策定料	・ポジトロン断層撮影又はポジトロン断層・コンピューター断層複合撮影
・がん治療連携管理料	・CT撮影及びMRI撮影
・肝炎インターフェロン治療計画料	・冠動脈CT撮影加算
・薬剤管理指導料	・大腸CT撮影加算
・医療機器安全管理料1	・心臓MRI撮影加算
・医療機器安全管理料2	・抗悪性腫瘍剤処方管理加算
・医療機器安全管理料(歯科)	・外来化学療法加算1
・造血管腫瘍遺伝子検査	・無菌製剤処理料
・HPV核酸検出	・心大血管疾患リハビリテーション料(I)及び初期加算
・検体検査管理加算(IV)	・脳血管疾患等リハビリテーション料(I)及び初期加算
・遺伝カウンセリング加算	・運動器リハビリテーション料(I)及び初期加算
・心臓カテーテル法による諸検査の血管内視鏡検査加算	・呼吸器リハビリテーション料(I)及び初期加算
・植込型心電図検査	・がん患者リハビリテーション料
・時間内歩行試験	・抗精神病特定薬剤治療指導管理料(治療抵抗性統合失調症治療指導管理料に限る)
・胎児心エコー法	・医療保護入院等診療料
・ヘッドアップティルト試験	・透析液水質確保加算1

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
・一酸化窒素吸入療法	・広範囲顎骨支持型装置埋入手術
・歯科技工加算	・麻酔管理料(I)
・悪性黒色腫センチネルリンパ節加算	・麻酔管理料(II)
・腫瘍脊椎骨全摘術	・放射線治療専任加算
・脳刺激装置植込術(頭蓋内電極植込術を含む)及び脳刺激装置交換術	・外来放射線治療加算
・脊髄刺激装置植込術及び脊髄刺激装置交換術	・高エネルギー放射線治療
・人工内耳植込術	・強度変調放射線治療(IMRT)
・上顎骨形成術(骨移動を伴う場合に限り)(歯科)、下顎骨形成術(骨移動を伴う場合に限り)(歯科)	・画像誘導放射線治療加算(IGRT)
・乳がんセンチネルリンパ節加算1(併用法)	・体外照射呼吸性移動対策加算
・経皮的冠動脈形成術(特殊カテーテルによるもの)	・直線加速器による放射線治療(定位放射線治療)
・ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術	・定位放射線治療呼吸性移動対策加算(その他のもの)
・植込型心電図記録計移植術及び植込型心電図記録計摘出術	・保険医療機関間の連携による病理診断
・植込型除細動器移植術、植込型除細動器交換術及び経静脈電極抜去術(レーザーシースを用いるもの)	・テレパソロジーによる術中迅速病理組織標本作製
・両室ペースメーカー機能付き植込型除細動器移植術及び両室ペースメーカー機能付き植込型除細動器交換術	・テレパソロジーによる術中迅速細胞診
・大動脈バルーンパンピング法(IABP法)	・病理診断管理加算1
・経皮的動脈遮断術	・クラウン・ブリッジ維持管理料
・ダメージコントロール手術	・歯科矯正診断料
・早期悪性腫瘍大腸粘膜下層剥離術	・顎口腔機能診断料(顎変形症(顎離断等の手術を必要とするものに限る)の手術前後における歯科矯正に係るもの)
・体外衝撃波腎・尿管結石破碎術	・人工乳房及び組織拡張器(乳房用)使用
・同種死体腎移植術	・体外衝撃波膀胱石破碎術
・生体腎移植術	・
・膀胱水圧拡張術	・
・腹腔鏡下小切開前立腺悪性腫瘍手術	・
・医科点数表第2章第10部手術の通則5及び6(歯科点数表第2章第9部の通則4を含む)に掲げる手術	・
・輸血管理料II	・
・内視鏡手術用支援機器加算	・

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

7 健康保険法の規定による療養に要する費用の額の算定方法に先進医療から採り入れられた医療技術

施設基準等の種類	施設基準等の種類
・抗悪性腫瘍剤感受性検査(HDRA法又はCD-DST法)	・
・超音波骨折治療法	・
・内視鏡的大腸粘膜下層剥離術	・
・先天性難聴の遺伝子診断(他の医療機関に対して検体の採取以外の業務を委託するもの)	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・

(注)1 特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入しなくともよいこと。

(注)2 「施設基準等の種類」欄には、特定機能病院の名称の承認申請又は業務報告を行う3年前の4月以降に、健康保険法の規定による療養に要する費用の額の算定方法(平成六年厚生省告示第五十四号)に先進医療(当該病院において提供していたものに限る。)から採り入れられた医療技術について記入すること。

8 病理・臨床検査部門の概要

臨床検査及び病理診断を実施する部門の状況	①. 臨床検査部門と病理診断部門は別々である。 ②. 臨床検査部門と病理診断部門は同一部門にまとめられている。
臨床部門が病理診断部門或いは臨床検査部門と開催した症例検討会の開催頻度	病理診断部門:週2回 臨床検査部門:週4回
剖 検 の 状 況	剖検症例数 36例 / 剖部検率 14.75%

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
白血病細胞の機能薬理に基づく抗腫瘍薬耐性の克服とテーラーメイド化学療法の確立	山内 高弘	血液・腫瘍内科	800,000	補委	日本学術振興会 科学研究費助成事業
肝臓の慢性炎症が誘導する発がん候補遺伝子におけるドライバー変異の同定	中本 安成	内科学(2)	5,400,000	補委	日本学術振興会 科学研究費助成事業
性差に基づいた胃発癌抑制の試み	大谷 昌弘	内科学(2)	700,000	補委	日本学術振興会 科学研究費助成事業
タウ蛋白オリゴマーが誘導するアルツハイマー病の分子機序の解明 臨床への応用	濱野 忠則	内科学(2)	1,800,000	補委	日本学術振興会 科学研究費助成事業
樹状細胞と新規ケモカイン製剤の併用により肝がんの二次発がんを制御する手法の開発	中本 安成	内科学(2)	800,000	補委	日本学術振興会 科学研究費助成事業
肝エネルギー代謝に関与する新規転写抑制因子の機能解析と代謝関連肝疾患治療への応用	根本 朋幸	内科学(2)	900,000	補委	日本学術振興会 科学研究費助成事業
小脳失調型橋本脳症の臨床像と病態機序の解明	松永 晶子	内科学(2)	1,000,000	補委	日本学術振興会 科学研究費助成事業
筋萎縮性側索硬化症(ALS)患者における酸化ストレスのPETイメージング	井川 正道	神経内科	1,500,000	補委	日本学術振興会 科学研究費助成事業
ブレインマシーンインターフェースの開発に寄与する表面筋電図情報の基礎的研究	神澤 朋子	神経内科	2,200,000	補委	日本学術振興会 科学研究費助成事業
ヒト分泌型VLDL受容体濃度測定の臨床的意義とその生理機能の解明	高橋 貞夫	内科学(3)	1,200,000	補委	日本学術振興会 科学研究費助成事業
プロトン感受性受容体刺激のアレルギー性気道炎症と線維化へ及ぼす影響に関する研究	石塚 全	内科学(3)	800,000	補委	日本学術振興会 科学研究費助成事業
アンジオテンシンIV受容体可溶性成分の高感度測定系構築と臨床的有用性の評価	此下 忠志	内科学(3)	1,500,000	補委	日本学術振興会 科学研究費助成事業
糸球体腎炎に対するFSP1を中心とした新規治療戦略	岩野 正之	腎臓病態内科学	3,700,000	補委	日本学術振興会 科学研究費助成事業
レドックス生体応答反応を利用した新規のベッドサイド迅速酸化ストレス診断法の開発	糟野 健司	腎臓病態内科学	1,700,000	補委	日本学術振興会 科学研究費助成事業
糖尿病性腎症の進展におけるポドサイトとメサンギウム細胞の相互作用の意義	岩野 正之	腎臓病態内科学	1,200,000	補委	日本学術振興会 科学研究費助成事業
食物アレルギーに対する制御性T細胞誘導を利用した経皮免疫療法の開発	大嶋 勇成	小児科学	1,400,000	補委	日本学術振興会 科学研究費助成事業
オートファジー機能修飾により食物アレルギーを抑制する	安富 素子	小児科学	1,100,000	補委	日本学術振興会 科学研究費助成事業
効果的な抗腫瘍免疫をもたらす自家造血幹細胞移植法の開発研究	鈴木 孝二	小児科	1,600,000	補委	日本学術振興会 科学研究費助成事業
ステロイド抵抗性喘息における気道上皮細胞のオートファジーの重要性	村井 宏生	小児科	2,100,000	補委	日本学術振興会 科学研究費助成事業
経皮感作による食物アレルギー発症機序の解明と経皮免疫療法への応用	河北 亜希子	小児科	1,200,000	補委	日本学術振興会 科学研究費助成事業
亜鉛欠乏および社会的隔離による情動変化に関する基礎的研究	小俣 直人	神経科精神科	1,500,000	補委	日本学術振興会 科学研究費助成事業
自閉性障害の神経ネットワーク異常に関する研究:非線形解析による脳形態生理学的検討	高橋 哲也	神経科精神科	2,000,000	補委	日本学術振興会 科学研究費助成事業
創造性が高齢者の脳機能に及ぼす影響—脳波の非線形解析を用いた統合的研究—	上野 幹二	精神医学	1,200,000	補委	日本学術振興会 科学研究費助成事業
体内オキシトシン濃度の簡易検査法としての唾液中濃度測定の有用性の検討	松村 由紀子	精神医学	1,200,000	補委	日本学術振興会 科学研究費助成事業

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
サイトカインを標的とする強皮症の治療戦略	長谷川 稔	皮膚科学	1,200,000	③ 日本学術振興会 科学研究費助成事業
胎児末梢血内間葉系幹細胞を利用した新規胎児皮膚治療の臨床応用に向けた基礎研究	知野 剛直	皮膚科	1,100,000	③ 日本学術振興会 科学研究費助成事業
3T高磁場MRIによるASL手法を基礎とする非侵襲的機能画像の開発と臨床応用	木村 浩彦	放射線医学	1,000,000	③ 日本学術振興会 科学研究費助成事業
子宮・卵巣疾患における非造影灌流MR画像法(ASL法)の開発と臨床応用	小坂 信之	放射線医学	1,200,000	③ 日本学術振興会 科学研究費助成事業
治療法最適化のためのがん分子イメージングと治療効果に関する研究	佐藤 義高	放射線科	1,200,000	③ 日本学術振興会 科学研究費助成事業
大腸癌におけるケモカイン・ケモカインレセプターの発現とメカニズムの検討	山口 明夫	外科学(1)	1,300,000	③ 日本学術振興会 科学研究費助成事業
大腸癌におけるPROK1/EG-VEGF蛋白質発現と抗体療法の可能性の検討	五井 孝憲	消化器外科	1,300,000	③ 日本学術振興会 科学研究費助成事業
絹タンパク質sericinを用いた無血清培地によるラット長期膝島培養の検討	森川 充洋	消化器外科	1,500,000	③ 日本学術振興会 科学研究費助成事業
脊髄障害性疼痛の分子生物学的病態解析とニューロイメージングを用いた脊髄機能評価	内田 研造	整形外科	2,100,000	③ 日本学術振興会 科学研究費助成事業
脊髄損傷における骨髄間質細胞移植効率向上のための病態解明と克服に関する基礎的研究	中嶋 秀明	整形外科	1,700,000	③ 日本学術振興会 科学研究費助成事業
マウス損傷脊髄に対するヒト骨髄幹細胞移植後のmicrogliaの組織学的検討	渡邊 修司	整形外科	1,500,000	③ 日本学術振興会 科学研究費助成事業
グリオーマの浸潤機構の解明とその阻害方法	北井 隆平	脳脊髄神経外科学	500,000	③ 日本学術振興会 科学研究費助成事業
Cu-ATSMを用いた血管内皮前駆細胞の生体内追跡とグリオーマ新生血管抑制療法	菊田 健一郎	脳脊髄神経外科学	900,000	③ 日本学術振興会 科学研究費助成事業
虚血性脳血管障害における新たな画像診断技術62Cu-ATSM PETに関する検討	磯崎 誠	脳脊髄神経外科	900,000	③ 日本学術振興会 科学研究費助成事業
体温依存性重要臓器血流分布における麻酔薬の効果	高倉 康	麻酔・蘇生学	800,000	③ 日本学術振興会 科学研究費助成事業
超低出生体重児の消化管成熟に向けた治療戦略:肺サーファクタントを用いた動物実験	西島 浩二	産科婦人科学	600,000	③ 日本学術振興会 科学研究費助成事業
生体機能検査を用いた子宮肉腫の病態解明の試みと治療法の模索	吉田 好雄	産科婦人科学	1,800,000	③ 日本学術振興会 科学研究費助成事業
表膜細胞/アンドロゲン系を制御する:ゴナドトロピン不応症の克服を目指して	折坂 誠	産婦人科	1,200,000	③ 日本学術振興会 科学研究費助成事業
ジェノゲストを用いた抗癌剤からの卵巣機能保護の研究	津吉 秀昭	産婦人科	1,000,000	③ 日本学術振興会 科学研究費助成事業
メタボリック症候群:脳酸化ストレス制御はLUTS治療のブレイクスルーになり得るか	横山 修	泌尿器科学	3,200,000	③ 日本学術振興会 科学研究費助成事業
下部尿路閉塞により増強される膀胱粘膜自律収縮促進作用に関する研究	秋野 裕信	泌尿器科学	900,000	③ 日本学術振興会 科学研究費助成事業
夜間頻尿はメタボリック症候群の発症予測あるいは進行のマーカーとなりうるか?	青木 芳隆	泌尿器科学	800,000	③ 日本学術振興会 科学研究費助成事業
オートファジーの制御は前立腺癌治療のブレイクスルーとなりえるか	伊藤 秀明	泌尿器科学	1,400,000	③ 日本学術振興会 科学研究費助成事業
睡眠障害と性欲/勃起障害の関連における脳由来ニューロステロイドの役割は何か	三輪 吉司	泌尿器科	700,000	③ 日本学術振興会 科学研究費助成事業
腎癌に対するFLT PETを用いた分子標的薬の早期治療効果判定のための臨床研究	大山 伸幸	泌尿器科	1,300,000	③ 日本学術振興会 科学研究費助成事業
PETを用いた腎癌に対する分子標的薬の早期治療効果判定のための基礎的検討	多賀 峰克	泌尿器科	1,600,000	③ 日本学術振興会 科学研究費助成事業
ミトコンドリア視神経軸索流をバイオマーカーにした新しい緑内障診断法の創出	稲谷 大	眼科学	3,400,000	③ 日本学術振興会 科学研究費助成事業
水晶体における血管新生抑制因子の探索と血管新生緑内障の新しい病態概念の確立	高村 佳弘	眼科学	1,000,000	③ 日本学術振興会 科学研究費助成事業

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
再生医療を応用した新しい緑内障手術	稲谷 大	眼科学	1,000,000	③ 日本学術振興会 科学研究費助成事業
新規ライブイメージングを駆使した、緑内障進行を予測する軸索輸送パラメータの同定	瀧原 祐史	眼科	1,000,000	③ 日本学術振興会 科学研究費助成事業
網羅的解析を組み合わせたスギ花粉症に対する遺伝子多型からの発症予防と治療戦略	藤枝 重治	耳鼻咽喉科・頭頸部外科学	3,000,000	③ 日本学術振興会 科学研究費助成事業
生体用共焦点レーザー顕微鏡によるヒト鼓索神経切断後の味蕾退縮・再生過程の解明	齋藤 武久	耳鼻咽喉科・頭頸部外科学	700,000	③ 日本学術振興会 科学研究費助成事業
G2checkpoint abrogationによる頭頸部癌抗癌剤耐性の克服	成田 憲彦	耳鼻咽喉科・頭頸部外科学	1,300,000	③ 日本学術振興会 科学研究費助成事業
好酸球性副鼻腔炎の病態形成における肥満細胞の役割に関する研究	高林 哲司	耳鼻咽喉科・頭頸部外科学	1,500,000	③ 日本学術振興会 科学研究費助成事業
遺伝子多型関連分子と難治性上気道好酸球性病変局所の好塩基球に対する治療戦略	山田 武千代	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	6,500,000	③ 日本学術振興会 科学研究費助成事業
アレルギー性鼻炎の診断治療における鼻腔一酸化窒素濃度の有用性の検討	山本 英之	耳鼻咽喉科・頭頸部外科学	1,000,000	③ 日本学術振興会 科学研究費助成事業
IgA腎症口蓋扁桃におけるBcl-2過剰発現と糖鎖不全IgA産生の関係について	須長 寛	耳鼻咽喉科・頭頸部外科学	1,400,000	③ 日本学術振興会 科学研究費助成事業
アレルギー性鼻炎における感作・発症に関する研究	意元 義政	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	1,200,000	③ 日本学術振興会 科学研究費助成事業
ES細胞から甲状腺濾胞上皮細胞への分化誘導及び体内でのホルモン産生の研究	菅野 真史	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	1,800,000	③ 日本学術振興会 科学研究費助成事業
アレルギー性鼻炎におけるORMDL3遺伝子発現の影響	富田 かおり	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	2,500,000	③ 日本学術振興会 科学研究費助成事業
ケモカインレセプターの頭頸部癌における役割の検討	岡本 昌之	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	2,300,000	③ 日本学術振興会 科学研究費助成事業
カテキンによる上皮増殖因子受容体蛋白分解の分子機構解明と口腔癌増殖抑制作用の検討	吉村 仁志	歯科口腔外科学	1,300,000	③ 日本学術振興会 科学研究費助成事業
材料-上皮組織間の組織学的評価を行うための簡便なin vitro試験法の確立	古橋 一憲	歯科口腔外科	1,100,000	③ 日本学術振興会 科学研究費助成事業
東日本大震災における避難所で発生した呼吸器疾患のリスク因子の調査	川野 貴久	救急部	1,400,000	③ 日本学術振興会 科学研究費助成事業
脂質応答性転写因子の抗線維化作用の解析と新規治療薬の探索-低酸素性腎障害を中心に	木村 秀樹	検査部	1,200,000	③ 日本学術振興会 科学研究費助成事業
多様化を続ける紅斑熱群の輻輳した病態解析に基づく治療制御法の確立	岩崎 博道	感染制御部	1,500,000	③ 日本学術振興会 科学研究費助成事業
Pathogenesis analysis of sciatica on lumbar disc herniation. Changes of nerve root evoked	小林 茂	リハビリテーション部	2,500,000	③ 日本学術振興会 科学研究費助成事業
大脳-末梢神経Dual stimulationを用いたリハビリテーションの開発	久保田 雅史	リハビリテーション部	2,900,000	③ 日本学術振興会 科学研究費助成事業
Kチャンネル選択性のメカニズムの解明	三田 建一郎	集中治療部	500,000	③ 日本学術振興会 科学研究費助成事業
冬眠の各種治療への応用 (HP Complexに注目して)	安田 善一	集中治療部	1,600,000	③ 日本学術振興会 科学研究費助成事業
長幹骨の内軟骨性骨化におけるレチノイン酸の機能解明	峯岸 芳樹	形成外科	900,000	③ 日本学術振興会 科学研究費助成事業
がん播種性転移に対する蛍光診断と光力学的治療に関する研究	片山 寛次	がん診療推進センター	500,000	③ 日本学術振興会 科学研究費助成事業
脳画像解析と遺伝子多型解析の融合による注意欠陥多動性障害(ADHD)の病態解明	友田 明美	子どものこころの発達研究センター	4,400,000	③ 日本学術振興会 科学研究費助成事業
高校・大学生の発達障害における身体機能障害の評価・支援法の開発とデータベース構築	中井 昭夫	子どものこころの発達研究センター	700,000	③ 日本学術振興会 科学研究費助成事業
顔刺激fMRIによる愛着障害へのオキシトシン治療効果判定システム開発	友田 明美	子どものこころの発達研究センター	1,600,000	③ 日本学術振興会 科学研究費助成事業
発達障害発症基盤としての胎生期脂質代謝異常の研究	松崎 秀夫	子どものこころ診療部	1,400,000	③ 日本学術振興会 科学研究費助成事業

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
学童期自閉症スペクトラムにおけるオキシトシン関与の解明	八ツ賀 千穂	子どものこころの発達研究センター	700,000	補 委 日本学術振興会 科学研究費助成事業
注意欠陥/多動性障害、広汎性発達障害、及び合併症例の前頭葉機能評価とその臨床応用	浅野 みずき	子どものこころ診療部	1,700,000	補 委 日本学術振興会 科学研究費助成事業
植込み型除細動器(ICD)による持続的STモニタリングの有効性に関する検討	笈田 浩	循環器内科	60,000	補 委 特定非営利活動法人インターベンションのエビデンスを創る会
タウ蛋白オリゴマーを介したアルツハイマー病の分子機序の解明	濱野 忠則	神経内科	884,000	補 委 (独)科学技術振興機構
StageⅢ結腸癌治療切除例に対する術後補助化学療法としてのmFOLFOX6療法またはXELOX療法における5-FU系抗がん剤およびオキサリプラチンの至適投与期間に関するランダム化第Ⅲ相比較臨床試験	山口 明夫	消化器外科	231,000	補 委 (財)がん集学的治療研究財団
入力型BMI電気刺激を用いた運動と感覚の再生法の研究開発	神澤 朋子	神経内科	3,887,000	補 委 総務省
在宅医療と介護の為にアラームアドバイザー支援システムの研究開発	山村 修	神経内科	3,686,800	補 委 総務省
視機能確保に貢献する脳神経外科手術用眼球保護モニターの開発	北井 隆平	脳脊髄神経外科	1,700,000	補 委 (独)科学技術振興機構
血中脂肪酸代謝解析による高精度自閉症早期診断マーカーの確立	松崎 秀夫	子どものこころ診療部	1,700,000	補 委 (独)科学技術振興機構
新生児マススクリーニング(NBS)の標準化、適応疾患の拡大とゲノムコホート研究の推進	重松 陽介	小児科	300,000	補 委 (独)国立成育医療研究センター
心房細動の予防ならびに重症化の予測的診療体系の確立	笈田 浩	循環器内科	1,800,000	補 委 (独)国立循環器病研究センター
重症好酸球性副鼻腔炎の診断基準作成と治療法確立に関する研究	藤枝 重治	耳鼻咽喉科	11,700,000	補 委 国立保健医療科学院
キサチンチンオキシダーゼ阻害薬による抗腫瘍性スクレオンドアナログの効果の増強	山内 高弘	血液・腫瘍内科	400,000	補 委 公益財団法人痛風財団
Th17細胞やIL-17Aを標的とした全身性強皮症の治療の開発	飯野 志郎	皮膚科	1,000,000	補 委 公益財団法人日本応用酵素協会
骨髄幹細胞移植による脊髄障害性疼痛の治療をめざした免疫組織化学的ならびに統合的脊髄機能解析	渡邊 修司	整形外科	1,000,000	補 委 公益財団法人整形災害外科学研究助成財団
注意欠陥/多動性障害、広汎性発達障害、及び合併症例の前頭葉機能評価とその臨床応用	浅野 みずき	子どものこころ診療部	500,000	補 委 公益財団法人発達科学研究教育センター

小計16

(注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。

2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。

3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

計96

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

(1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	発表者の所属	題名	雑誌名
1	山内 高弘	内科学(1)	A high serum uric acid level is associated with poor prognosis in patients with acute myeloid leukemia	Anticancer Res 33 9 3947-3951 2013
2	山内 高弘	内科学(1)	Aurora B inhibitor barasertib and cytarabine in combination exert greater-than-additive cytotoxicity against cytarabine-resistant acute myeloid leukemia cells	Cancer Sci 104 7 926-933 2013
3	山内 高弘	内科学(1)	Detectable Wilms' tumor-1 transcription at treatment completion is associated with poor prognosis of acute myeloid leukemia: A single institution's experience	Anticancer Res 33 8 3335-3340 2013
4	酒巻 一平	内科学(1)	Lenalidomide enhances the protective effect of a therapeutic vaccine and reverses immune suppression in mice bearing established lymphomas	Leukemia 28 2 329-337 2014
5	池ヶ谷 諭史	内科学(1)	Case Report: Tsutsugamushi Disease Caused by Shimokoshi-Type Orientia tsutsugamushi: The First Report in Western Japan	The American Society of Tropical Medicine and Hygiene 88 6 1217-1219 2013
6	井川 正道	神経内科	Detection of preclinically latent hyperperfusion due to stroke-like episodes by arterial spin-labeling perfusion MRI in MELAS patients	Mitochondrion 13 6 676-680 2013
7	此下 忠志	内科学(3)	A crossover comparison of urinary albumin excretion as a new surrogate marker for cardiovascular disease among 4 types of calcium channel blockers	Int J Cardiol 166 2 448-452 2013
8	三上 大輔	腎臓内科	Telmisartan activates endogenous peroxisome proliferator-activated receptor- δ and may have anti-fibrotic effects in human mesangial cells	Hypertension Research 37 422-431 2013
9	福岡 良友	循環器内科学	Reverse blood flow-glucose metabolism mismatch indicates preserved oxygen metabolism in patients with revascularised myocardial infarction	Eur J Nucl Med Mol Imaging 40 8 1155-1162 2013
10	宇随 弘泰	循環器内科学	Effects of combination therapy with olmesartan and azelnidipine on serum osteoprotegerin in patients with hypertension	J Cardiovasc Pharmacol Ther 19 3 304-309 2013
11	五井 孝憲	外科学(1)	Prokineticin 1 Expression in Gastrointestinal Tumors	Anticancer Res 33 12 5311-5316 2013
12	飯田 敦	外科学(1)	Retrocolic Roux-en-Y anastomosis for total laparoscopic distal gastrectomy: Fix-the-remnant-first technique	Asian J Endosc Surg 6 4 333-337 2013
13	五井 孝憲	外科学(1)	Measures for Preventing Wound Infections During Elective Open Surgery for Colorectal Cancer: Scrubbing With Gauze	Int Surg 99 11 35-39 2014
14	飯田 敦	外科学(1)	Laparoscopic resection for splenic artery aneurysm using the lateral approach: report of two cases	Asian J Endosc Surg 6 2 147-150 2013
15	小練 研司	消化器外科	Rapidly enlarged inflammatory hepatocellular adenoma: A case report	Open Journal of Gastroenterology 3 4 227-230 2013
16	澤井 利次	消化器外科	Partial response after transcatheter arterial infusion chemotherapy in a patient with systemic chemotherapy-resistant unresectable colon cancer and hepatic metastasis:	World Journal of Surgical Oncology 11 1 203 2013
17	池田 岳史	外科学(2)	Reply to Rychlik and McManus	Eur J Cardiothorac Surg. 43 4 875-876 2013
18	横山 修	泌尿器科学	Imidafenacin, an antimuscarinic agent, improves nocturia and reduces nocturnal urine volume	Urology 82 3 515-520 2013

番号	発表者氏名	発表者の所属	題名	雑誌名
19	渡邊 望	泌尿器科	Antidiuretic effect of antimuscarinic agents in rat model depends on C-fibre afferent nerves in the bladder	BJU Int 112 1 131-136 2013
20	土山 克樹	泌尿器科	Expression of MicroRNAs associated with Gleason grading system in prostate cancer: miR-182-5p is a useful marker for high grade prostate cancer	Prostate 73 8 827-834 2013
21	高原 典子	泌尿器科	Drugs interacting with organic anion transporter-1 affect uptake of Tc-99m-mercaptoacetyl-triglycine(MAG3) in the human kidney: Therapeutic drug interaction in Tc-99m-MAG3 diagnosis of renal function and possible application of Tc-99m-MAG3 for drug development	Nuclear Medicine and Biology 40 5 643-650 2013
22	大山 伸幸	泌尿器科	Carbon-11-acetate positron emission tomography(PET), versus fluorine-18 fluorodeoxyglucose PET and CT for the diagnosis of recurrent prostate cancer after radical prostatectomy in cases of prostate specific antigen of more than 1 to 3ng/ml	Hellenic Journal of Nuclear Medicine 16 2 146-147 2013
23	大山 伸幸	泌尿器科	Diagnosis of complex renal cystic masses and solid renal lesions using PET imaging: comparison of 11C-acetate and 18F-FDG PET imaging	Clinical Nuclear Medicine 39 3 208-214 2014
24	伊藤 秀明	泌尿器科	Tumour multiplicity as a risk factor for the development of bladder tumours after primary upper urinary tract cancer	Journal of Clinical Urology 6 3 148-152 2013
25	大山 伸幸	泌尿器科	Alpha 1-Adrenoceptor Blocker May Improve Not Only Voiding But Also Storage Lower Urinary Tract Symptoms Caused by 125I Brachytherapy for Prostate Cancer	ISRN Urology Volume 2014, Article ID 140654, 8 pages 2014
26	多賀 峰克	泌尿器科	Surgical treatment of adrenal gland metastasis originating from small cell carcinoma of the urinary bladder	Case Reports in Urology Volume 2013, Article ID 982787, 3 pages 2013
27	徳力 篤	皮膚科学	Electron-microscopy of cherry haemangioma in the early diagnosis of Fabry disease	Acta Dermato-Venereologica. 93 4 471-472 2013
28	長谷川 稔	皮膚科学	Serum adhesion molecule levels as prognostic markers in patients with early systemic sclerosis: a multicentre, prospective, observational study	PLoS One 9 2 e88150. 2014
29	内田 研造	整形外科	18F-FDG PET/CT for diagnosis of osteosclerotic and osteolytic vertebral metastatic lesions: Comparison with bone scintigraphy	Asian Spine J 7 2 96-103 2013
30	小久保 安朗	整形外科	Dislocated intra-articular femoral head fracture associated with fracture-dislocation of the hip and acetabulum: report of 12 cases and technical notes on surgical intervention	Eur J Orthop Surg Traumatol 23 5 557-564 2013
31	宮崎 剛	整形外科	Chondroblastoma of the distal femur resected through a small fenestra via computed tomography navigation and endoscopy: a case report	J Med Case Rep 7 1 164 2013
32	杉田 大輔	リハビリテーション部	Indian hedgehog signaling promotes chondrocyte differentiation in enchondral ossification in human cervical ossification of the posterior longitudinal ligament	Spine 38 22 E1388-E1396 2013
33	小林 茂	リハビリテーション部	Diaphyseal tibiofibular synostosis in a runner	J Foot Ankle Surg 52 5 638-642 2013
34	高村 佳弘	眼科学	Anterior capsule contraction and flare intensity in the early stages after cataract surgery in eyes with diabetic retinopathy	Journal of Cataract & Refract Surgery 39 5 716-721 2013
35	松村 健大	眼科学	Human glutathione S-transferase A (GSTA) family genes are regulated by steroidogenic factor 1 (SF-1) and are involved in steroidogenesis	The FASEB Journal 27 8 3198-3208 2013
36	高村 佳弘	眼科学	Aldose reductase inhibitor counteracts the enhanced expression of matrix metalloproteinase-10 and improves corneal wound healing in galactose-fed rats	Molecular Vision 19 2477-2486 2013
37	友松 威	眼科	Relationship between lenticular power and refractive error in children with hyperopia	Clinical Ophthalmology 2013 7 601-606 2013
38	瀧原 祐史	眼科	Trabeculectomy for open-angle glaucoma in phakic eyes vs in pseudophakic eyes after phacoemulsification : a prospective clinical cohort study	JAMA Ophthalmol 132 1 69-76 2014

番号	発表者氏名	発表者の所属	題名	雑誌名
39	藤枝 重治	耳鼻咽喉科・頭頸部 外科学	Eosinophilic chronic Rhinosinusitis	J. Rhinol 20 17-20 2013
40	齋藤 武久	耳鼻咽喉科・頭頸部 外科学	Observation of regenerated fungiform taste buds after severing the chorda tympani nerve using confocal laser scanning microscopy in vivo	Otol Neurotol 35 3 e110-116 2014
41	高林 哲司	耳鼻咽喉科・頭頸部 外科学	Increased expression of factor XIII-A in patients with chronic rhinosinusitis with nasal polyps	J Allergy Clin Immunol 132 3 584-592 2013
42	山田 武千代	耳鼻咽喉科・頭頸部 外科	Present state of Japanese cedar pollinosis: the national affliction	J Allergy Clin Immunol 133 3 632-639 2014
43	徳永 貴広	耳鼻咽喉科・頭頸部 外科	Long-term compliance with nasal continuous positive airway pressure therapy for sleep apnea syndrome in an otorhinolaryngological office	Eur Arch Otorhinolaryngol 270 8 2267-2273 2013
44	小嶋 章弘	耳鼻咽喉科・頭頸部 外科	Predictor of rehabilitation outcome for dysphagia	Auris Nasus Larynx 41 3 294-298 2014
45	意元 義政	耳鼻咽喉科・頭頸部 外科	Cystatin SN upregulation in patients with seasonal allergic rhinitis	PLoS One 8 8 e67057 2013
46	佐野 和生	歯科口腔外科学	Frontal meningioma incidentally detected in the routine preoperative assessment of tongue cancer: a case report and literature review	J Oral Maxillofac Surg 71 12 2195e1-e6 2013
47	吉村 仁志	歯科口腔外科	Mandibular reconstruction using iliac bone and great auricular nerve grafts and oral rehabilitation using osseointegrated implants in a patient with a large ossifying fibroma: a ten-year follow-up study	Journal of Oral and Maxillofacial Surgery 71 12 2176-2188 2013
48	相木 美那子	歯科口腔外科	Rapid growing myofibroma of the gingiva: report of a case and review of the literature	J Oral Maxillofac Surg 72 1 99-105 2014
49	鈴木 孝二	小児科	Preimmunization of donor lymphocytes enhances antitumor immunity of autologous hematopoietic stem cell transplantation	Cancer Med 2 5 636-645 2013
50	安富 素子	小児科学	Rice-protein induced enterocolitis with transient specific IgE to boiled rice but not to retort-processed rice	Pediatr Int 56 1 110-112 2014
51	林 仁幸子	小児科学	Paroxysmal cold hemoglobinuria caused by an IgM-class Donath-Landsteiner antibody	Pediatr Int 55 5 664-666 2013
52	大嶋 勇成	小児科学	Mucosal Immunity and the onset of allergic disease	Allergol Int 62 3 279-289 2013
53	折坂 誠	産科婦人科	Dysregulation of ovarian follicular development in female rat: LH decreases FSH sensitivity during preantral-early antral transition	Endocrinology 154 8 2870-2880 2013
54	津吉 秀昭	産科婦人科	18F-fluorothymidine PET is a potential predictive imaging biomarker of the response to gemcitabine-based chemotherapeutic treatment for recurrent ovarian cancer: preliminary results in three patients	Clin Nucl Med 38 7 560-563 2013
55	津吉 秀昭	産科婦人科	Cervical adenocarcinoma associated with persistent human papilloma and human immunodeficiency viral infections	Int Canc Conf J 3 issue3 195-199 2013
56	石飛 信	精神医学	Effectiveness and tolerability of switching to aripiprazole from risperidone in subjects with autism spectrum disorders: a prospective open-label study	Clin Neuropharmacol 36 5 151-156 2013
57	水野 智之	精神医学	Mania: Not the opposite of depression, but an extension? Neuronal plasticity and polarity	Med Hypotheses 81 2 175-179 2013
58	岡崎 玲子	神経科精神科	Effects of electroconvulsive therapy on neural complexity in patients with depression: Report of three cases	J Affect Disord 150 2 389-392 2013

番号	発表者氏名	発表者の所属	題名	雑誌名
59	石飛 信	精神医学	Quetiapine responsive catatonia in an autistic patient with comorbid bipolar disorder and idiopathic basal ganglia calcification	Brain Dev s0387-7604 13 00348-3 2014
60	高橋 哲也	精神医学	Complexity of spontaneous brain activity in mental disorders	Prog Neuropsychopharmacol Biol Psychiatry 45 258-266 2013
61	有島 英孝	脳脊髄神経外科	Intraoperative and pathological findings of intramedullary amputation neuroma associated with spinal ependymoma	Brain Tumor Pathol 30 3 196-200 2013
62	有島 英孝	脳脊髄神経外科	Vascular leiomyoma of the scalp with a small deformity on the skull mimicking a dermoid cyst	Pediatr Dermatol 30 3 e27-29 2013
63	北井 隆平	脳脊髄神経外科学	The adaptation of a neuroendoscopic sheath to a Leksell stereotactic frame to make it suitable for approaching small ventricles: a technical note	J Nuerol Surg A Cent Eur Neurosurg 75 2 151-154 2014
64	松木 悠佳	麻酔・蘇生学	A case of intractable hiccups successfully treated with pregabalin	Pain Physician 17 2 E241-E242 2014
65	土田 龍郎	放射線医学	Imaging the early response to chemotherapy in advanced lung cancer with diffusion-weighted magnetic resonance imaging compared to fluorine-18 fluorodeoxyglucose positron emission tomography and computed tomography	Journal of Magnetic Resonance Imaging 38 1 80-88 2013
66	山元 龍哉	放射線医学	Monitoring of extra-axial brain tumor response to radiotherapy using pseudo-continuous arterial spin labeling images: Preliminary results	Magn Reson Imaging 31 8 1271-1277 2013
67	竹内 香代	放射線医学	A rare congenital anomaly, bridge-like appendiceal fistula to the terminal ileum, demonstrated by MDCT	Surgical and radiologic anatomy 35 6 523-527 2013
68	友田 明美	子どものこころの発達研究センター	No interaction between serotonin transporter polymorphism gene (5-HTTLPR) and adversity on depression among Japanese children and adolescents	BMC Psychiatry 13 134 1-9 2013
69	藤井 猛	子どものこころの発達研究センター	Depressive mood modulates the anterior lateral CA1 and DG/CA3 during a pattern separation task in cognitively intact individuals: A functional MRI study	Hippocampus 24 2 212-224 2014
70	浅野 みずき	子どものこころの発達研究センター	Effects of ramelteon on refractory behavioral and psychological symptoms of dementia	Journal of Clinical Psychopharmacology 33 4 579-581 2013
71	清水 一浩	放射線部	Arterial spin labeling perfusion-weighted MRI for long-term follow-up of a cerebral arteriovenous malformation after stereotactic radiosurgery	Acta Radiologica Short Reports 3 1 2047981613510160 2014
72	信川 泰成	集中治療部	Successful treatment of severe legionella pneumonia and acute kidney injury with polymyxin B-immobilized fiber column direct hemoperfusion	Anaesth Pain & Intensive Care 17 1 88-90 2013
73	渡邊 享平	薬剤部	Application of Hospital Preparations for Cancer Treatment, and an Approach toward Their Commercialization	Biol. Pharm. Bull. 36 5 719-722 2013
74	古俣 孝明	薬剤部	Inhibitory effect of ciprofloxacin on β -glucuronidase-mediated deconjugation of mycophenolic acid glucuronide	BIOPHARMACEUTICS&DRUG DISPOSITION 35 5 275-283 2014

小計16

- (注) 1 当該特定機能病院に所属する医師等が申請の前年度に発表した英語論文のうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを七十件以上記入すること。七十件以上発表を行っている場合には、七十件のみを記載するのではなく、合理的な範囲で可能な限り記載すること。
- 2 報告の対象とするのは、筆頭著者の所属先が当該特定機能病院である論文であり、査読のある学術雑誌に掲載されたものに限るものであること。ただし、実態上、当該特定機能病院を附属している大学の講座等と当該特定機能病院の診療科が同一の組織として活動を行っている場合においては、筆頭著者の所属先が大学の当該講座等であっても、論文の数の算定対象に含めるものであること（筆頭著者が当該特定機能病院に所属している場合に限る）。
- 3 「発表者の所属」については、論文に記載されている所属先をすべて記載すること。
- 4 「雑誌名」欄には、「雑誌名」「巻数・号数」「該当ページ」「出版年」について記載すること。
- 5 平成二十六年度中の業務報告において当該実績が七十件未満の場合には、平成二十六年度の改正前の基準による実績についても報告すること。

計74

(様式第 3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

3 高度の医療技術の開発及び評価の実施体制

(1) 倫理審査委員会の開催状況

① 倫理審査委員会の設置状況	有・無
② 倫理審査委員会の手順書の整備状況	有・無
・ 手順書の主な内容 1. 倫理審査申請から承認、研究の実施までの流れ (図) 2. 倫理審査申請書類の作成について 3. 倫理審査の申請から委員会審査、承認まで 4. 研究計画の実施状況報告及び終了 (中止) 報告について 5. 重篤な有害事象及び不具合への対応 6. 倫理審査委員会に関する情報 7. 倫理審査申請に関する問い合わせ先	
③ 倫理審査委員会の開催状況 (25年度実績)	(委員会開催) 年 9 回 (委員長及び委員 2 名による迅速審査) 年 4 0 回

- (注) 1 倫理審査委員会については、「臨床研究に関する倫理指針」に定める構成である場合に「有」に○印を付けること。
2 「③倫理審査委員会の開催状況」に係る報告については、平成二十六年年度中の業務報告(25年度実績)において開催実績が無い場合には、平成二十六年四月以降の実績を報告しても差し支えないこと(その場合には、その旨を明らかとすること)。

(2) 利益相反を管理するための措置

① 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の設置状況	有・無
② 利益相反の管理に関する規定の整備状況	有・無
・ 規定の主な内容 1. 趣旨 2. 委員会の設置 3. 組織 4. 申告書の提出等	

5. 審査の方法	
6. 審査結果の報告	
7. 指導等	
8. 事務	
9. 雑則	
③ 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の開催状況（25年度実績）	（委員会開催）年6回 （委員全員による書面附議）年19回 （委員長審査）年35回

（注）「③利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の開催状況」に係る報告については、平成二十六年中（平成25年度実績）において開催実績が無い場合には、平成二十六年四月以降の実績を報告しても差し支えないこと（その場合には、その旨を明らかとすること）。

(3) 臨床研究の倫理に関する講習等の実施

① 臨床研究の倫理に関する講習等の実施状況	年 3 回
<p>・研修の主な内容（25年度実績）</p> <p>1. H25. 7. 12（金）17:30～18:30</p> <p>「治験・臨床研究・看護研究を実施するために必要な基礎知識」</p> <p>福井大学医学部附属病院 薬剤部・治験先進医療センター主任 渡邊享平</p> <p>2. H25. 9. 17（火）18:00～19:00</p> <p>「医学研究利益相反マネジメントの現状と今後の展開～産学連携の推進に向けたマネジメントの在り方～」</p> <p>東京医科歯科大学 研究・産学連携推進機構 産学連携研究センター長 飯田香緒里 教授</p> <p>3. H26. 2. 12（水）17:30～18:30</p> <p>「臨床研究のデザインとデータ解析～やさしく学ぼう臨床統計～」</p> <p>京都大学 大学院医学研究科 医学統計生物情報学 森田智視 教授</p>	

（注）「①臨床研究の倫理に関する講習等の実施状況」に係る報告については、平成二十六年中（平成25年度実績）において実施実績が無い場合には、平成二十六年四月以降の実績を報告しても差し支えないこと（その場合には、その旨を明らかとすること）。

(様式第 4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

1 研修の内容

各診療科においては、専門医研修プログラムを有し、修練目標・研修方略等が掲げられた詳細なカリキュラムに沿って研修し、それぞれの専門医取得を目指す。

2 研修の実績

研修医の人数	134人
--------	------

(注) 前年度の研修医の実績を記入すること。

3 研修統括者

研修統括者氏名	診療科	役職等	臨床経験年数	特記事項
上田 孝典	血液・腫瘍内科	理事	38年	
岩崎 博道	感染症・膠原病内科	教授	26年	
瀧野 忠則	神経内科	准教授	22年	
中本 安成	消化器内科	教授	23年	
此下 忠志	内分泌・代謝内科	准教授	26年	
石塚 全	呼吸器内科	教授	22年	
岩野 正之	腎臓内科	教授	25年	
茅田 浩	循環器内科	教授	27年	
山口 明夫	消化器外科	教授	37年	
前田 浩幸	乳腺・内分泌外科	講師	23年	
腰地 孝昭	心臓血管外科	教授	28年	
佐々木 正人	呼吸器外科	准教授	24年	
横山 修	泌尿器科	教授	30年	
長谷川 稔	皮膚科	教授	21年	
馬場 久敏	整形外科・脊椎外科	教授	35年	
小林 茂	リハビリテーション科	准教授	29年	
稲谷 大	眼科	教授	17年	
藤枝 重治	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	教授	26年	
佐野 和生	歯科口腔外科	教授	34年	
大嶋 勇成	小児科	教授	27年	
吉田 好雄	産科婦人科	教授	24年	
和田 有司	神経科精神科	教授	35年	
菊田健一郎	脳脊髄神経外科	教授	21年	
重見 研司	麻酔科蘇生科	教授	28年	
木村 浩彦	放射線科	教授	25年	
林 寛之	救急科	教授	26年	
今村 好章	病理診断科	准教授	28年	

(注) 1 医療法施行規則第六条の四第一項又は第四項の規定により、標榜を行うこととされている診療科については、必ず記載すること。

(注) 2 内科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。

(注) 3 外科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。

(様式第 4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

4 医師、歯科医師以外の医療従事者等に対する研修

① 医師、歯科医師以外の医療従事者に対する研修の実施状況（任意）
<p>・研修の主な内容</p> <p>最新の医療と薬物療法における注意点、特に副作用の早期発見、重篤化防止のための初期症状、検査値の見方について各種領域の専門医を交えてのディスカッション</p> <p>・研修の期間・実施回数</p> <p>平成25年度 年3回</p> <p>・研修の参加人数</p> <p>50名/回（薬剤師）</p>
② 業務の管理に関する研修の実施状況（任意）
<p>・研修の主な内容</p> <p>診療支援部教育サポートシステム研修(チーム医療、教育)</p> <p>・研修の期間・実施回数</p> <p>平成25年6月9日～6月20日 6回</p> <p>・研修の参加人数</p> <p>30名（検査技師、放射線技師、リハビリ技士等）</p>
③ 他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況
<p>・研修の主な内容</p> <p>・研修の期間・実施回数</p> <p>・研修の参加人数</p>

(注) 1 高度の医療に関する研修について記載すること。

(注) 2 「③他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況」については、医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院についてのみ記載すること。また、日本全国の医療機関に勤務する医療従事者を対象として実施した専門的な研修を記載すること。なお、平成二十六年度中の業務報告(平成25年度実績)においては、平成二十六年四月以降の実績(計画)を報告しても差し支えないこと(その場合には、その旨を明らかにすること)。

(様式第 5)

診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の管理方法に関する書類

計画・現状の別	1. 計画 (2). 現状
管理責任者氏名	病院長 和田 有司
管理担当者氏名	総務管理課長 綿矢 憲之 経営企画課長 戸田 政孝 医療サービス課長 安岡 浩憲 医療情報部長 大嶋 勇成 医療安全管理部長 井俣 彰夫 感染制御部長 岩崎 博道 薬剤部長 政田 幹夫 放射線部長 木村 浩彦 ME機器管理部長 佐藤 一史

	保管場所	管理方法
診療に関する諸記録 病院日誌、各科診療日誌、処方せん、手術記録、看護記録、検査所見記録、エックス線写真、紹介状、退院した患者に係る入院期間中の診療経過の要約及び入院診療計画書	病院部医療サービス課(病歴室)、薬剤部、放射線部、医療情報部 各診療科	外来診療録は、1患者1ファイル、入院診療録は、1患者1入院1ファイルで病歴室において中央管理している。電子診療録として、1患者1ファイルを医療情報部において管理している。なお、診療録の持ち出しは禁止としている。
病院の管理及び運営に関する諸記録	従業者数を明らかにする帳簿	総務部人事労務課
	高度の医療の提供の実績	病院部経営企画課
	高度の医療技術の開発及び評価の実績	病院部総務管理課
	高度の医療の研修の実績	病院部総務管理課
	閲覧実績	病院部総務管理課
	紹介患者に対する医療提供の実績	病院部医療サービス課
	入院患者数、外来患者及び調剤の数を明らかにする帳簿	病院部医療サービス課及び薬剤部
第規一則号第一に掲げる十の第一項及び第九の二十第一項	医療に係る安全管理のための指針の整備状況	医療安全管理部
	医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	医療安全管理部
	医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	医療安全管理部
	医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況	医療安全管理部
	専任の医療に係る安全管理を行う者の配置状況	医療安全管理部
	専任の院内感染対策を行う者の配置状況	感染制御部
	医療に係る安全管理を行う部門の設置状況	医療安全管理部
	当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	医療安全管理部

		保管場所	管理方法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第一条の十一第一項各号及び第九条の二十三第一項第一号に掲げる体制の確保の状況	院内感染のための指針の策定状況	感染制御部
		院内感染対策のための委員会の開催状況	感染制御部
		従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	感染制御部
		感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の実施状況	感染制御部
		医薬品の使用に係る安全な管理のための責任者の配置状況	薬剤部
		従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	薬剤部
		医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	薬剤部
		医薬品の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	薬剤部
		医療機器の安全使用のための責任者の配置状況	ME機器管理部
		従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	ME機器管理部
医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	ME機器管理部		
医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	ME機器管理部		

(注)「診療に関する諸記録」欄には、個々の記録について記入する必要はなく、全体としての管理方法の概略を記入すること。また、診療録を病院外に持ち出す際に係る取扱いについても記載すること。

(様式第 6)

病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法に関する書類

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法

計画・現状の別	1. 計画 <input type="radio"/> 2. <input checked="" type="radio"/> 現状
閲覧責任者氏名	病院長 和田 有司
閲覧担当者氏名	総務管理課長 綿矢 憲之
閲覧の求めに応じる場所	管理棟会議室
閲覧の手続の概要 諸記録の閲覧の申請を担当係に行う。 申請内容を確認の後、閲覧資料の準備を行う。 所定の場所（主に管理棟の会議室）において閲覧。	

(注)既に医療法施行規則第9条の20第5号の規定に合致する方法により記録を閲覧させている病院は現状について、その他の病院は計画について記載することとし、「計画・現状の別」欄の該当する番号に○印を付けること。

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧の実績

前年度の総閲覧件数	延	0	件	
閲覧者別	医師	延	0	件
	歯科医師	延	0	件
	国	延	0	件
	地方公共団体	延	0	件

(注)特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入する必要はないこと。

(様式第 6)

規則第 1 条の 1 1 第 1 項各号及び第 9 条の 2 3 第 1 項第 1 号に掲げる体制の確保の状況

① 医療に係る安全管理のための指針の整備状況	有・無
・ 指針の主な内容： (1) 医療に係る安全管理の基本的考え方 (2) 医療に係る安全管理の体制 (3) 職員研修に関する基本方針 (4) 医療に係る安全確保の改善方策に関する基本方針 (5) 医療上の事故発生時の対応に関する基本方針 (6) 医療従事者と患者との間の情報の共有に関する基本方針(患者等に対する当該指針の閲覧に関する基本方針を含む。) (7) 相談への対応に関する基本方針 (8) その他医療安全の推進のために必要な基本方針	
② 医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	年 12 回
・ 活動の主な内容： (1) 医療安全管理の指針に関すること。 (2) 医療安全管理の対策及び改善に関すること。 (3) 医療安全管理に係る指導及び助言に関すること。 (4) その他医療安全管理の重要事項に関すること。	
③ 医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	年 22 回
・ 研修の主な内容： (1) 全職員を対象に、平成25年5月23日に院内講師による「災害の基礎知識」「スタート法トリアージについて トリアージカードの記入方法の基本&演習」についての研修を行った。 (2) 全職員を対象に、平成25年6月10日に外部講師による「医療メディエーション：対話による関係調整」についての研修を行った。 (3) 全職員を対象に、平成25年8月30日に院内講師による「急変事の対応」についての研修を行った。 (4) 全職員を対象に、平成25年9月26日に外部講師による「患者安全を進めるチームSTEPS」についての研修を行った。 (5) 全職員を対象に、平成25年10月4日に外部講師による「RST勉強会：上手にRSTを使いましょう」についての研修を行った。 (6) 全職員を対象に、平成25年10月25日に外部講師による「カルテを味方につけよう」についての研修を行った。 (7) 全職員を対象に、平成25年11月14日に院内講師による「CT・MRI検査の安全な運用」についての研修を行った。 (8) 全職員を対象に、平成25年12月3日に院内講師による「オカレンス事例からの学び」についての研修を行った。 (9) 全職員を対象に、平成26年2月19日に院内講師による「生体情報モニタ」についての研修を行った。 (10) 全職員を対象に、平成26年3月5日に院内・外部講師による「心肺蘇生とAEDの使い方」について研修を行った。 他 10 件	

<p>④ 医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 医療機関内における事故報告等の整備 (<input checked="" type="radio"/> 有 ・ 無) ・ その他の改善のための方策の主な内容： <ul style="list-style-type: none"> (1) オカレンスレポートは医療安全管理部に報告され、GRMと部員が日々モニタリングを行い現場確認を行っている。また、内容により各部署における対策の確認が必要な場合は医療安全管理部長より文書で提出を依頼し、医療安全管理部で内容を確認し検証を行っている。 (2) 医療事故防止強化月間を定め、重要事項を決めて医療事故防止に取り組んでいる。 (3) 医療安全管理部員が毎月2回実施部署を決め、院内パトロールを実施している。 (4) 各部門の管理担当者が参加するカンファレンスを週1回程度開催し、医療安全対策に係る取組の評価等を行っている。 (5) GRMが日々定期的に院内を巡回し、各部門における医療安全対策の実施状況を把握・分析し、医療安全確保のために必要な業務改善等の具体的な対策を推進している。 	
<p>⑤ 専任の医療に係る安全管理を行う者の配置状況</p>	<p><input checked="" type="radio"/> 有 (4名) ・ 無</p>
<p>⑥ 専任の院内感染対策を行う者の配置状況</p>	<p><input checked="" type="radio"/> 有 (5名) ・ 無</p>
<p>⑦ 医療に係る安全管理を行う部門の設置状況</p>	<p><input checked="" type="radio"/> 有 ・ 無</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・ 所属職員： 専任 (4) 名 兼任 (19) 名 ・ 活動の主な内容： <ul style="list-style-type: none"> (1) 医療安全管理委員会への情報提供及び改善等の提案に関すること。 (2) オカレンスの収集、調査、分析及び防止策に関すること。 (3) オカレンスレポートで報告された医療上の事故について影響レベルの判定に関すること。 (4) 医療上の事故防止に係る提言及び指導に関すること。 (5) 医療安全管理に関する教育、研修及び啓発に関すること。 (6) 事故等に関する診療録や看護記録等への記載が正確、かつ、十分になされていることの確認を行うとともに、必要な指導を行うこと。 (7) 患者や家族への説明など事故発生時の対応状況について確認を行うとともに、必要な指導を行うこと。 (8) 各部門のリスクマネージャーとの連絡調整及びリスクマネージャー会議の運営に関すること。 (9) 医療安全対策に係る取組の評価等を行うカンファレンスを週1回程度開催する。 (10) その他医療の安全管理に関すること。 	
<p>⑧ 当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況</p>	<p><input checked="" type="radio"/> 有 ・ 無</p>

(様式第 6)

院内感染対策のための体制の確保に係る措置

① 院内感染対策のための指針の策定状況	有・無
<p>・ 指針の主な内容：</p> <ol style="list-style-type: none">(1) 院内感染対策に関する基本的考え方(2) 院内感染対策に関する管理体制(3) 職員研修に関する基本方針(4) 感染症発生状況の報告に関する基本方針(5) 院内感染発生時の対応に関する基本方針(6) 指針の閲覧に関する基本方針(7) その他院内感染対策の推進のために必要な基本方針	
② 院内感染対策のための委員会の開催状況	年 12 回
<p>・ 活動の主な内容：</p> <ol style="list-style-type: none">(1) 院内感染対策指針に関すること。(2) 感染予防対策の確立に関すること。(3) 感染予防の実施、監視及び指導に関すること。(4) 感染源の調査に関すること。(5) 感染予防に係る諸調査及び情報の収集に関すること。(6) その他感染対策についての重要事項に関すること。	
③ 従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	年 13 回
<p>・ 研修の主な内容：</p> <ol style="list-style-type: none">(1) 全職員を対象に、平成25年5月27日に院内講師による「インフルエンザアウトブレイクの総括、手指衛生、咳エチケット」について研修を行った。(2) 全職員を対象に、平成25年6月14日に院内講師による「プライマリーケアと感染症、結核と職業感染対策、空気感染対策の実際」について研修を行った。(3) 全職員を対象に、平成25年7月17日に院内講師による「針刺し事故の現状と検査」についての研修を行った。(4) 全職員を対象に、平成25年8月23日に外部講師による「定期化3ワクチンと定期化予定ワクチンの効果と問題点、今後の展望」についての研修を行った。(5) 全職員を対象に、平成25年9月18日に院内講師による「もしもの時、あなたならどうしますか？食中毒発生の対応、災害時の感染対策」についての研修を行った。(6) 全職員を対象に、平成25年10月1日に院内講師による「排尿に関する問題と対策」についての研修を行った。(7) 全職員を対象に、平成25年11月18日に院内講師による「インフルエンザ対策」についての研修を行った。(8) 全職員を対象に、平成25年12月20日に外部講師による「エイズ診療の実際」についての研修を行った。(9) 全職員を対象に、平成26年1月15日に院内講師による「血流感染とカテーテル管理」についての研修を行った。(10) 全職員を対象に、平成26年2月27日に院内講師による「病原性微生物と消毒薬」についての研修を行った。 <p>他 3件</p>	
④ 感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の状況	
<p>・ 病院における発生状況の報告等の整備 (有・無)</p> <p>・ その他の改善のための方策の主な内容：</p> <ol style="list-style-type: none">(1) 感染症発生状況は感染制御部に報告され、感染制御部のメンバーのうち医師、看護師、薬剤師、臨床検査技師で構成された I C T が日々モニタリングを行っている。また、1週間に1回程度定期的に院内を巡回し、現場確認を行っている。また、内容により各部署における対策の確認が必要な場合は、感染制御部長より文書で提出を依頼し、部会で内容を確認し検証を行っている。(2) 感染制御部員が定期的実施部署を決め、ラウンドを実施している。(3) 各部署のリンクナースはICNと連携し、各看護単位の感染対策上の問題点を抽出し、改善策を実践している。(4) ICNが日々細菌室情報をもとに当該部署を巡回し感染対策の確認と改善指導を行っている。	

(様式第 6)

医薬品に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医薬品の使用に係る安全な管理のための責任者の配置状況	(有)・無
② 従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	年 4 回
・ 研修の主な内容： ・ 癌疼痛緩和と医療用麻薬について（平成25年5月30日） ・ ハイリスク薬の取り扱いについて（平成25年10月10日） ・ 麻薬の管理について（平成25年12月18日） ・ 医薬品の安全使用のための基本ルール（平成26年3月5日）	
③ 医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	
・ 手順書の作成 ((有)・無) ・ 業務の主な内容： ・ 医薬品の安全使用のための業務手順書作成 ・ 従業者に対する医薬品の安全使用のための研修 ・ 手順書に基づく業務実施状況の確認 ・ 医薬品の安全使用に必要な情報収集 ・ 放射性医薬品の管理状況の確認	
④ 医薬品の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
・ 医薬品に係る情報の収集の整備 ((有)・無) ・ その他の改善のための方策の主な内容： 薬剤主任1名をGRM(兼任)として配置し、医療安全管理部のカンファレンス（週1回）、院内パトロール、医療安全管理部会、医療安全管理委員会、オカレンス審議委員会等に参加し、院内の医療安全対策に参画している。 今年度は特に病棟における麻薬管理手順の見直しを行った。	

(様式第 6)

医療機器に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療機器の安全使用のための責任者の配置状況	有・無
② 従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	年 81 回
<p>・ 研修の主な内容：</p> <p>1) 新規購入の医療機器に関し、納品時に使用説明を含めた研修を行った。 2) 人工呼吸器や保育器等の高度な医療機器に関して、不定期に研修会を実施した。 3) 新規採用職員を対象とした医療機器の研修を行った。</p>	
③ 医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	
<p>・ 計画の策定 (有・無)</p> <p>・ 保守点検の主な内容：</p> <p>重要医療機器に関し、年間保守計画を立てて定期的に実施している。 また、必要に応じて定期間隔で点検を実施している医療機器もある。</p>	
④ 医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
<p>・ 医療機器に係る情報の収集の整備 (有・無)</p> <p>・ その他の改善のための方策の主な内容：</p> <p>(財) 日本医療機能評価機構及び(独) 医薬品医療機器総合機構から情報を収集し、必要に応じて医療安全管理部と医療機器安全管理委員会により、活用及び改善対策を取っている。</p>	

(様式第 7)

専門性の高い対応を行う上での取組みに関する書類 (任意)

1 病院の機能に関する第三者による評価

① 病院の機能に関する第三者による評価の有無	有・無
・評価を行った機関名、評価を受けた時期 I S O 9001 : 2008 平成24年7月30日	

(注) 医療機能に関する第三者による評価については、日本医療機能評価機構等による評価があること。

2 果たしている役割に関する情報発信

① 果たしている役割に関する情報発信の有無	有・無
・情報発信の方法、内容等の概要 ・本院のホームページにおいて、病院の概要の他、受診、診療科・部門、地域連携のご案内等の情報を発信している。 ・広報誌による本院の現状や最新情報の提供を行っている。 ・福井県広域災害・救急医療システム「医療情報ネットふくい」を活用し、診療等に関する情報を発信するとともに、応需情報の提供を行っている。 ・市民公開講座等を通じ、随時、本院の診療等に関する情報を発信している。 ・県内及び南加賀を中心に地域医療機関連携コーディネーターが医療機関を訪問し、本院の情報提供を行っている。	

3 複数の診療科が連携して対応に当たる体制

① 複数の診療科が連携して対応に当たる体制の有無	有・無
・複数の診療科が連携して対応に当たる体制の概要 ・中高年外来（産科婦人科、総合診療部との連携）を実施 ・がん診療推進センター（各診療科）がんサーボードの実施 ・歯科の周術期における口腔機能の管理（歯科口腔外科と各診療科） ・北米型（ER 型）救急体制により救急初期対応にあたり、必要に応じて各診療科に専門的な治療を依頼する体制を構築している（救急部と各診療科）	